平成２８年度　第１回ＦＤ/ＳＤ研修会（2016.6.7）５番教室

タイトル：アクティブ・ラーニングを促す授業実践

１．平成２８年６月７日（火）１６：３０～１８：００

２．講義棟５番講義室

３．スケジュール
司会：豊留孝仁先生
書記：宗岡寿美

１６：３０～１６：４０
開会あいさつ　奥田潔 学長

お忙しい中をたくさんの教員に出席いただきありがとうございます／
今日はアクティブ・ラーニング／従前の講義等をもって勉強だという考え／
自ら問題点を把握→多様化社会への対応／受け身の学習のみではダメ？／
こういう概念・実践でアクティブ・ラーニングは始まった／
なかなか進まないのはどうしてだろう？／問題意識をもって取り組む／
岡山大における事例紹介／講師の皆様よろしくお願いします。

１６：４０～１７：００
話題提供プレゼン①「アクティブ・ラーニングとは何か」
・アメリカと日本での経緯：教授から学習へ
・理系・実学系における特徴：課題と実践
プレゼンター　　斉藤準 講師（教育支援室）

斉藤先生のご講演

私（斉藤先生）からは概略的な話をする！／
その後，平舘先生・西田先生から具体的なお話をいただく／

１．「アクティブ・ラーニング」とは!?

なぜ＆どういうふうに：やらなくてはいけないのか？／
大学高等教育関係でよく共通理解が得られている理論
：溝上慎一氏の「著書」の内容をふまえて進める。

＝主体的・能動的学習
　主体的とは？能動的とは？
　自らの関心で課題を見つけ，意欲的に解決を目指す学習
　必ずしも高い理想や過度の期待を求めるものではない

＝Bonwell ＆ Eison（1991）
　学習者が「思考をともなう活動」に取り組むあらゆる学習

＝溝上（2014）
　「一方向的な知識伝達型講義を聞くという受動的学習を乗り越える意味でのあらゆる能動的な学習のこと」
　「書く・話す・発表するなどの活動への関与と，そこで生じる認知プロセスの外化をともなう」
　ほとんどの授業で行われている学習方法を，「あえて」再意識化

２．なぜ「アクティブ・ラーニング」!?

ユニバーサル化
　学生の多様化／ニーズの多様化／（進学率高い）
　学生の多様化＝従来の講義型授業だけでは学べない学生像
　ニーズの多様化＝教養＋専門＋ジェネリックスキル（汎用化能力）
　「教える」「支える」の限界
教授から学習へ（from Teaching to Learning）のパラダイム転換

教授学習パラダイムの転換
　教授パラダイム・学習パラダイム／目的・成果・学習・役割
　本学での導入実態（フィードバックコメントをもとに）

３．アクティブ・ラーニング型授業の例

タイプⅠ／教員主導（受動→能動）
　レクチャーカード／小テスト・レポート・予習・復習／クリッカーetc.
タイプⅡ／教員主導（汎用的能力）
　ディスカッション／プレゼンテーション／体験学習
タイプⅢ／学生主導（汎用的能力）
　協同・強調学習／調査学習／LTD 話合い学習法／ピアインストラクション／
　ＰＢＬ／ＴＢＬ／ＩＢＬ／ＦＢＬ・フィールドワーク

まずは簡単なものでも◎
　タイプⅠでも効果的！（簡単でも効果あり）／「学習中心」の意識化
コースの一部だけでも◎
　講義＋数回の演習でも効果
反転授業
　授業外学習＋ＡＬ型講義

まとめ
　アクティブ・ラーニング
　　１．非「受け身学習」／学習パラダイムにのっとって
　　２．学習パラダイムの意識化
　　３．簡単な導入 → 授業に合わせた工夫 → 本質的効果

１７：００～１７：２０
話題提供プレゼン②「アクティブ・ラーニング型授業の実践例」
・本学における取り組み：授業評価とそのフィードバック結果
・実践例（平舘先生，西田先生，斉藤）
プレゼンター　　平舘善明 准教授（教育支援室）
　　西田武弘 准教授（教育支援室）

平舘先生のご講演「大講義室での実践事例の紹介」

Ⅰ．アクティブ・ラーニングへの私のスタンス

教育学：特性能力「心のギア」 お互いの心の中に相手の要求や気持ちについて
　　の「仮説」を積み上げていく能力
学生の心理的要求，理解度，学ぶ意欲の共有・把握；

「学生による主体的・能動的な学習」は不可欠な存在

Ⅱ．大講義室での講義の一事例

「教育原理」生きる基盤（～２００名；２年前期）
第９講“いい授業”って何だろう？→ 全体でディスカッション

Ⅲ．講義概要と進め方

Ａ４のプリント配布
４つの授業パターンに，教師の目線から“いい授業”の順位付け
　ア　楽しくてわかる授業
　イ　つまらないけどわかる授業
　ウ　楽しくてわからない授業
　エ　つまらなくてわからない授業
解答パターン：
　アイウエ　わかる重視型；大半
　アウイエ　楽しい重視型；２～３割
　その他　　数人
各パターン支持者にマイクを向け，理由を求め，要点を黒板に授業者が端的にまとめる。
「楽しい」の内容・質に議論が焦点化してくる
議論が煮詰まってきたら、「わかる授業と楽しい授業」『よくわかる授業論』のプリントを配布
アウエイ　教育学の結論
「楽しい」＝「気まぐれ」ではなく「知的好奇心」

Ⅳ．大人数ディスカッションの効果

A5 版の感想用紙に、みんなビッシリ書いてくる
ディスカッションでの発言者は 15 人程度だが、その場に参加していることで、発言しなくとも、受講者それぞれが「能動的」、積極的に考えていることが、感想用紙から確認できる。

学ぶ意義を実感させ，学ぶ権利を保障する。
楽しい　『お笑い芸人』ではなく「マジシャン」や「でんじろう先生」

Ｖ．ネタ選びのポイント

ポイント
- いくつかのパターンの回答がまとまる
- 学会の研究成果として見解がまとまっているもの
- 学生の価値観を揺さぶるもの＝生活概念の再編成
- 内容が，身近に感じられてイメージしやすいもの

西田先生のご講演「家畜栄養学Ｉ」

毎週　復習試験／答え合わせ／講義／討論／結論意見

討論　６３人　７つ　９人ずつ　チームリーダー（研究室学生）
最終評価試験　通常の試験　討論・発表
相互評価による投票　底上げとしての加点
チームリーダーのゼミの成績

講義時間中の討論
　学生の評価／６３人中２人／
　ディスカッションが思うように進んでいない
　討論時間がうまく利用できていない

学生アンケート　工夫した割には学内の平均値と同じ

ツイッターによる農家の愚痴（抜粋）
　無知者に教えていては仕事にならない
　基礎知識の共有がないと難しい

講義　ミネラル・ビタミンのポスター発表
　講義でうまく説明できない
　１０分　７組ずつ　５段階評価
　　微量ミネラル：評価が高い　統一性高い…事前に集まって作成
　　ビタミンＡ：評価が低い　統一性低い…当日持ち寄り・貼りあわせ

質問（限定２問）

①小池先生より→平舘・西田先生へ

Ｑ．プレゼンする学生をじゃんけんで決定／パニック障害の子が泣き出した／
　　そこらへんがこれからの問題では？

Ａ．平舘先生より
　まだ（そういう学生に）当たったことがない
　この形式であれば，無理に誰に意見しろということではない

Ａ．西田先生より
　まだ，そこまで考えていない。
　当日，来なかった子もいた。その場合，チームリーダーが担当した。

②古岡先生→斉藤先生へ

Ｑ．アクティブ・ラーニングが増えてきた理由は？
　　従来の講義では学べない，その理由は？

Ａ．斉藤先生より

　そのとおり，学生の多様化である／
　以前であれば大学に入れない子が大学に入って来る／
　以前だと，講義だけの授業でも各自の頭の中で考えてまとめる／
　思考を伴ったうえで講義ノートをまとめる／

　しかし，いまの学生の中には，それが，ただ単に写すだけ／
　意味も分からず，授業中の学習が高められない／「学習」⇒「書き写し」／
　考えてまとめるという“訓練”ができていない子が入ってくる／

　もともとは大学内部から，以前できたこと（試験）ができなくなってきた／
　ＴＡつけるなどの工夫／従来講義では理解力が全然ない／

１７：２０～１７：５０
グループワーク・全体討論（アクティブ・ラーニング型授業の設計）
・個々の授業での実践例や問題意識の共有
・具体的な設計のアイディアや考えられる課題の共有

豊留先生　司会　⇒　斉藤先生　コーディネーター

○グループワーク

５～６人ぐらいのグループをつくる。席を動いてもかまわない。

ワークシート
・すでに導入していること
・導入したい工夫
・本学にふさわしいアクティブ・ラーニングとは

参加者各自，５分程度で（自らのことを）記入する
リーダー　⇒　discussion をする。

ex. 某グループ：リーダー・K先生（教育支援室）

K先生：小テスト／対話／講義・実習のリンク（１回ぐらい）／
講義・実習の組合せをカリキュラムで対応していただけないか？

O先生：学部授業　小テスト／レポート／課題／
大学院の授業　意見を求める／演習はディスカッション
講義ではなかなか難しい

●先生：獣医学ユニットでは，国家試験対応のために受動的／
そうしないと，学生の理解度が把握できない／講義はアクティブでない／
研究課題は，自分たちに見つけさせ⇒こちらが教えてもらう／

O元理事：近年講義をしていない／毎回感想文／
学習態度を評価項目に … 途中で終了

つぎに，<u>他グループと共有</u>

２名はグループに残る／
ほかの方は１，２名ずつ他のグループに「取材」に行く／
グループに残った２名は，他グループから受け入れた記者に，
　自らグループのアイディアを説明する／

２名の教員が「取材」に来た ⇒ K先生が説明する。
　「講義」と「レポート」をリンク／
　レクチャーカードを使用⇒コメントをなかなか全員にできない／
　獣医では，資格試験対応で講義主体にする／

他グループを取材した２名が戻ってきて，取材内容をフィードバックする。
　配布するプリントを未完成にして，その場で完成させる／
　スライド２～３枚ごとにクイズ／ムードルを使って復習／
　担当先生の労力が大変だ／少人数での discussion：取りまとめが…／

<u>O先生</u>
　クリッカー使用：参加している意識⇒授業評価が高くなった／
　設問内容：生産者の立場になって…／レクチャーカード⇒空欄を埋める／
　反転授業…最初に予習させて授業に生かす（教科書を読ませる）

大体は，意見を共有でき…動機づけになる。

１７：５０～１８：００（１０分）
閉会挨拶　　柳川久 理事

遅くまでご苦労さまでした／ご準備してくれた皆様ありがとうございます／
アクティブ・ラーニングって？／ホッとした：自分でもしている？／
小樽商大で視察した事例紹介／
学生・教員が学べるようになっていけるといい／

さいごに　司会
アンケート：出口で回収／ありがとうございました／

平成２８年度　第１回ＦＤ・ＳＤ研修会実施要項

タイトル：アクティブ・ラーニングを促す授業実践

１．日時：平成２８年６月７日（火）　１６：３０～１８：００（９０分間）

２．場所：講義棟　５番講義室

３．内容と目的：　教授から学習へのパラダイム転換における中心要素は，大学が学生による主体的・能動的な学習（アクティブ・ラーニング）を生み出すことにある。わが国では平成 24 年の中教審答申以降，アクティブ・ラーニングがさかんに取り上げられているが，その本質はこれまでのすべての教育改革のテーマとして議論されてきたといってもよい。本研修では，アクティブ・ラーニングとは何か，なぜ必要か，どのように取り組むことができるかなどの基本から始め，本学ならではの実践に向けた認識を共有する。本研修自体も参加教職員全体のアクティブ・ラーニングにより行う。

４．対象：全教職員

５．スケジュール

司会：豊留孝仁 講師（教育支援室）
書記：宗岡寿美 准教授（教育支援室）

１６：３０～１６：４０（１０分）
開会挨拶　　奥田潔 学長

１６：４０～１７：００（２０分）
話題提供プレゼン①「アクティブ・ラーニングとは何か」
- アメリカと日本での経緯：教授から学習へ
- 理系・実学系における特徴：課題と実践

プレゼンター　　斉藤準 講師（教育支援室）

１７：００～１７：２０（２０分）
話題提供プレゼン②「アクティブ・ラーニング型授業の実践例」
- 本学における取り組み：授業評価とそのフィードバック結果
- 実践例（平舘先生，西田先生，斉藤）

プレゼンター　　平舘善明 准教授（教育支援室）
西田武弘 准教授（教育支援室）

１７：２０～１７：５０（３０分）
グループワーク・全体討論（アクティブ・ラーニング型授業の設計）
- 個々の授業での実践例や問題意識の共有
- 具体的な設計のアイディアや考えられる課題の共有

１７：５０～１８：００（１０分）
閉会挨拶　　柳川久 理事

2016/6/7

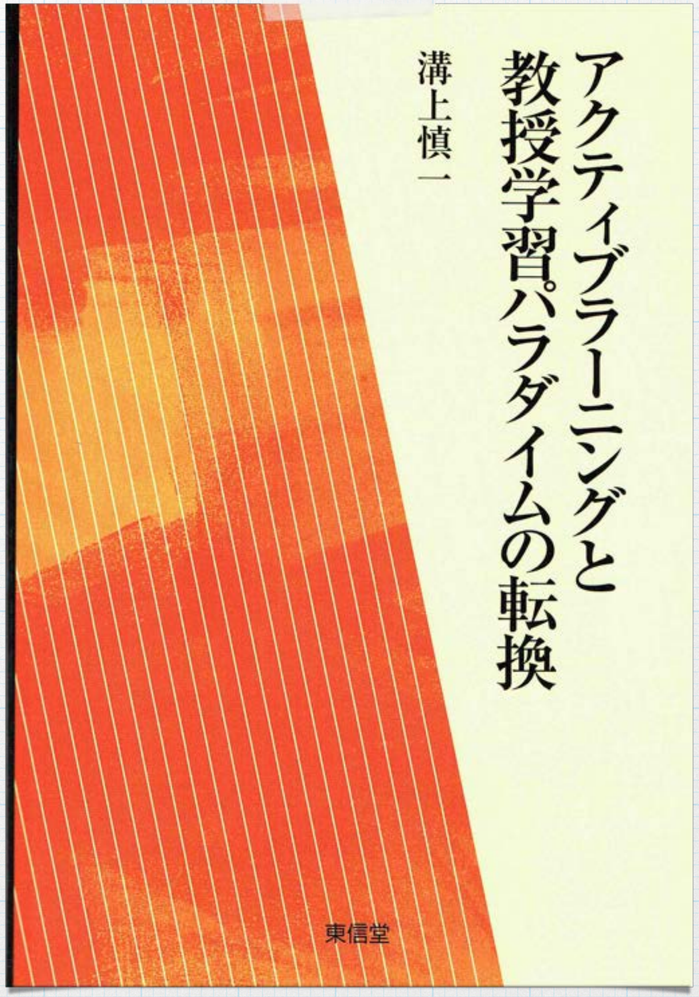
アクティブ・ラーニングとは何か

教育支援室 斉藤 準

第1回FD・SD研修会「アクティブ・ラーニングを促す授業実践」
2016年6月7日

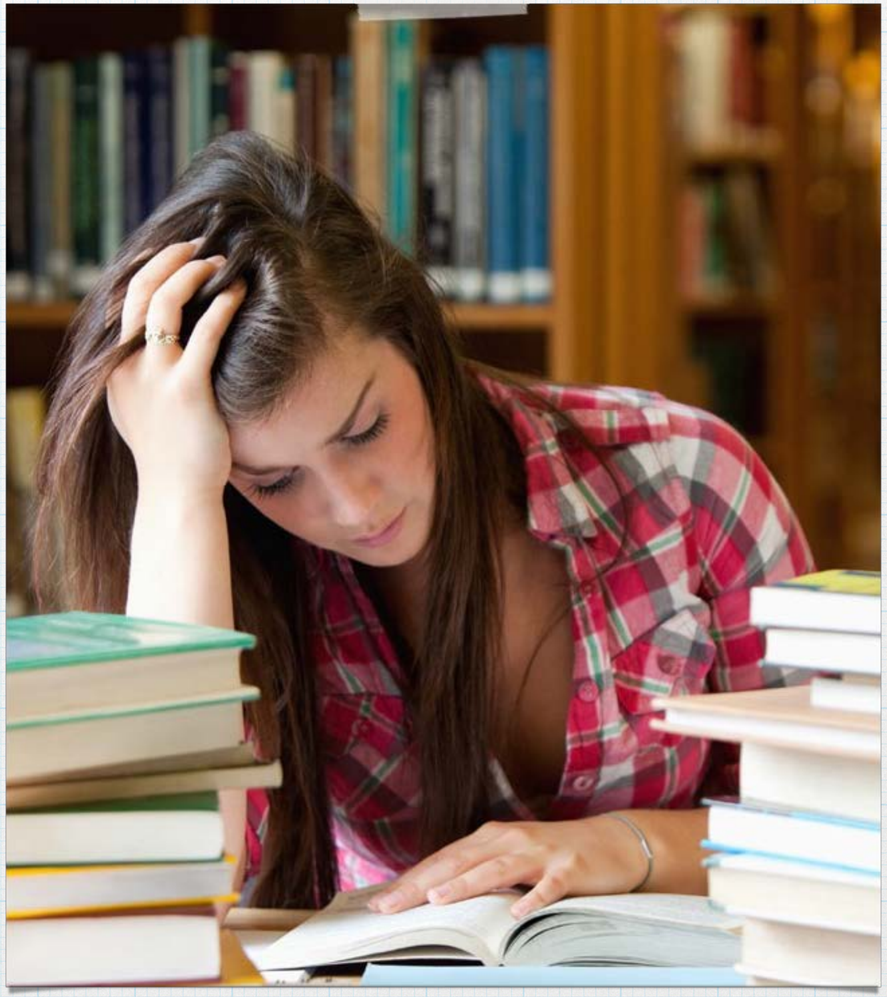
Goals

- アクティブ・ラーニング
  1. What?
  2. Why?
  3. How?



1. アクティブ・ラーニングとは？

- ＝主体的・能動的学習
  - 主体的とは？ 能動的とは？
  - 自らの関心で課題を見つけ，意欲的に解決を目指す学習？



必ずしも高い理想／過度の期待を求める学習ではありません

1. アクティブ・ラーニングとは？

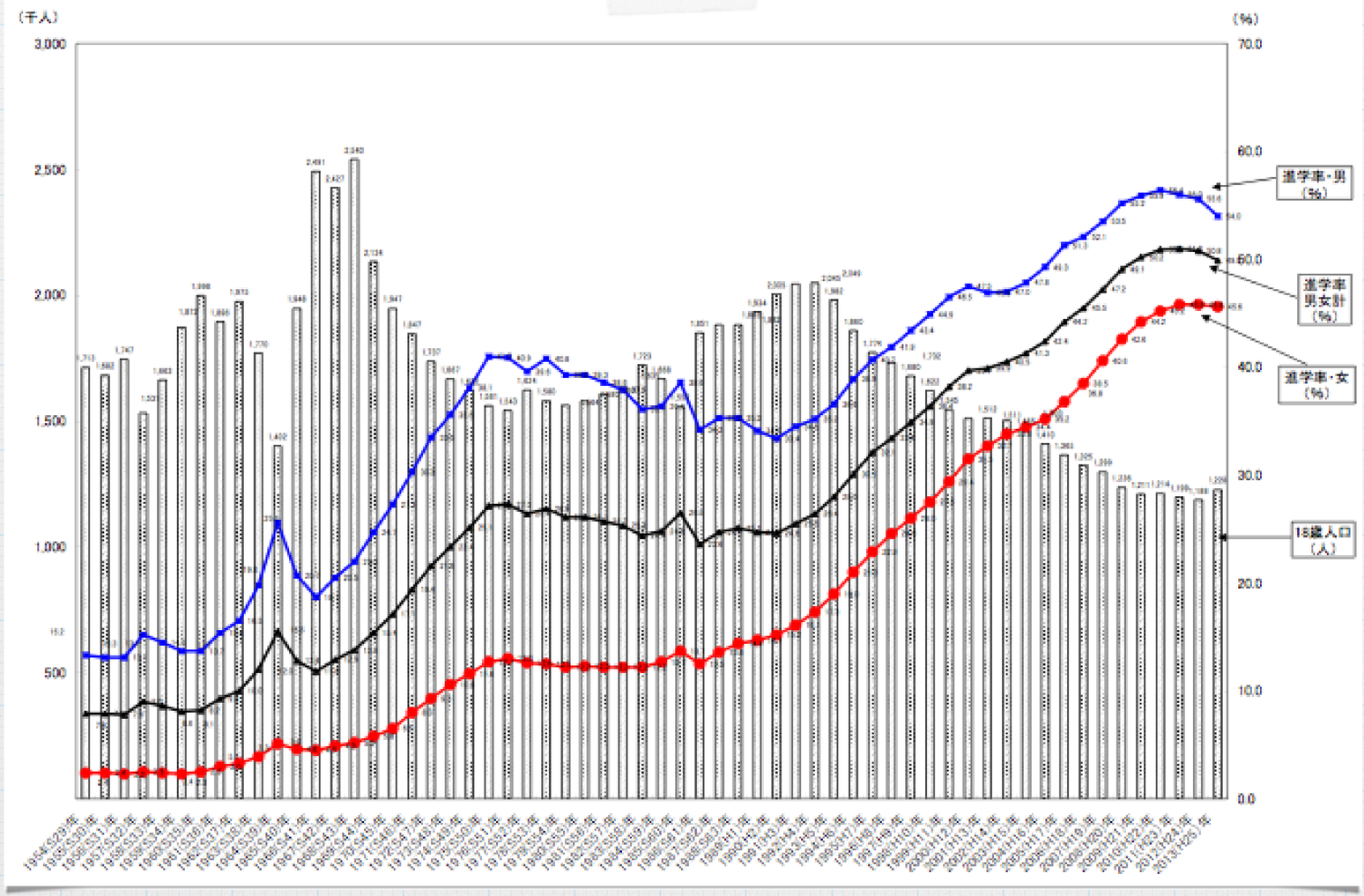
- Bonwell & Eison (1991)
  - Anything that involves students in doing things and thinking about what they are doing.
  - 学習者が「思考をともなう活動」に取り組むあらゆる学習

1. アクティブ・ラーニングとは？

- 溝上（2014）
  - 一方向的な知識伝達型講義を聞くという（受動的）学習を乗り越える意味での，あらゆる能動的な学習のこと。能動的な学習には，書く・話す・発表するなどの活動への関与と，そこで生じる認知プロセスの外化をともなう。

ほとんどの授業で行われている学習方法を，
「あえて」再意識化

2. なぜアクティブ・ラーニング？



- ユニバーサル化
  - 学生の多様化
  - ニーズの多様化

出典：武庫川女子大学教育研究所HP

文部統計要覧
学校基本調査報告書
文部科学統計要覧

2. なぜアクティブ・ラーニング？

- ユニバーサル化
  - 学生の多様化
    ＝従来の講義型授業だけでは学べない学生像
  - ニーズの多様化
    ＝教養＋専門＋ジェネリックスキル（汎用的能力）
  - 「教える」「支える」の限界

教授から学習へ（From Teaching to Learning）のパラダイム転換

教授学習パラダイムの転換

	教授パラダイム	学習パラダイム
目的	■知識を伝授・移譲する ■コースを提供する ■教育の質を改善する ■多様なアクセスを可能にする	■知識の発見や考えを誘い出す ■学習環境を創造する ■学習の質を改善する ■多様な成果を可能にする
成果	■入学する学生の質 ■カリキュラムの開発と拡大 ■資源の量と質 ■教員と教育の質	■卒業する学生の質 ■学習法の開発と拡大 ■成果の量と質 ■学生の学習の質

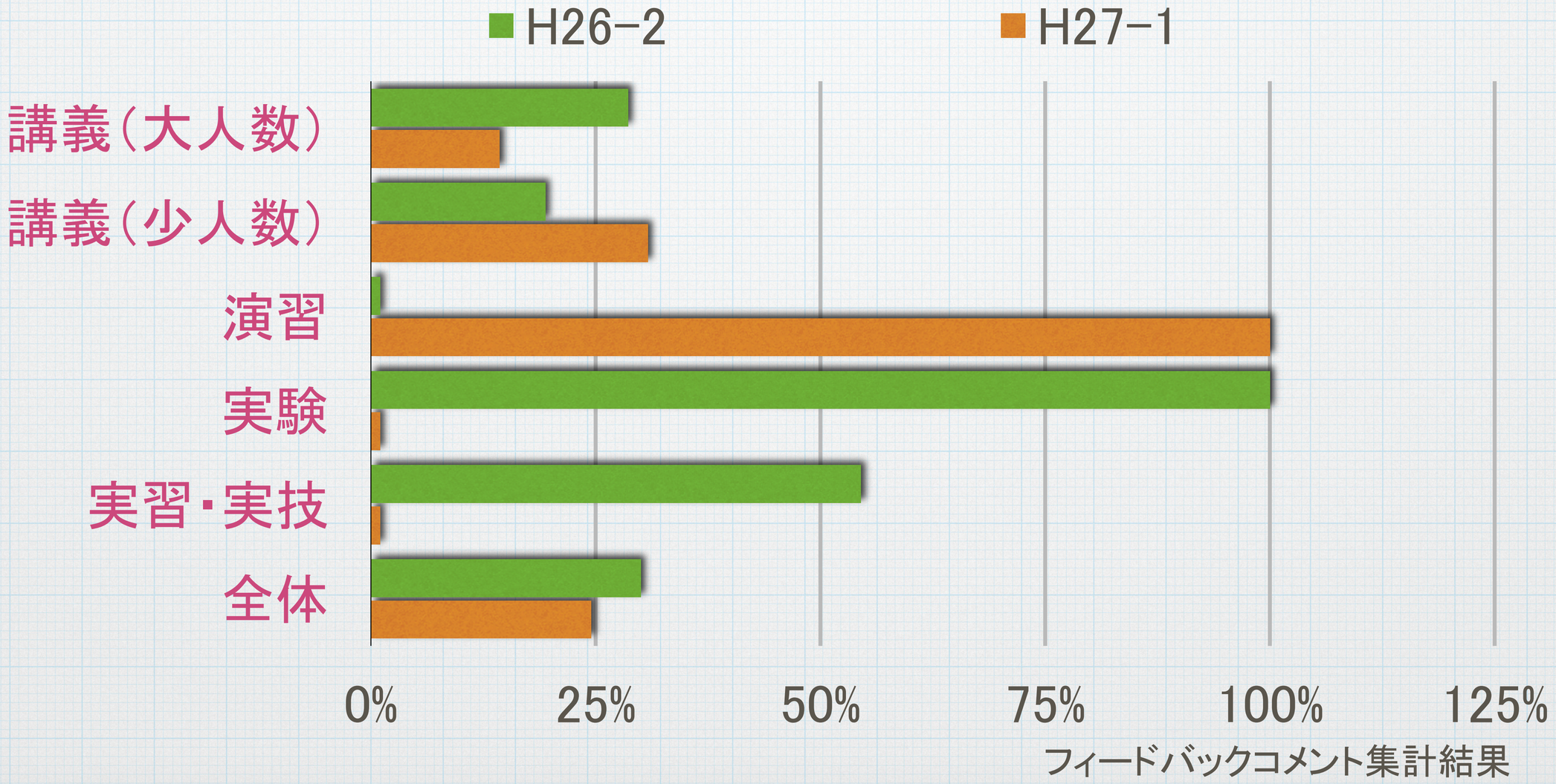
Barr & Tagg (1995)

教授学習パラダイムの転換

	教授パラダイム	学習パラダイム
学習	■「知識の倉庫」 ■学習は教師中心に管理 ■活気ある教師・学生の重視 ■学習は競争的・個人主義的	■「自転車の乗り方」 ■学習は学生中心に管理 ■積極的な学習者の重視 ■学習は協同的・互助的
役割	■教員は講義者 ■教員と学生は独立して行動 ■教員は学生を分類・選別する ■スタッフは教育を援助・支援	■教員は学習法・環境の設計者 ■教員と学生はチームで活動 ■教員は学生の能力/才能を伸ばす ■スタッフは学習/成果を作る教育者

Barr & Tagg (1995)

本学での導入実態


H26-2
H27-1
講義（大人数）
講義（少人数）
演習
実験
実習・実技
全体
0%
25%
50%
75%
100%
125%
フィードバックコメント集計結果

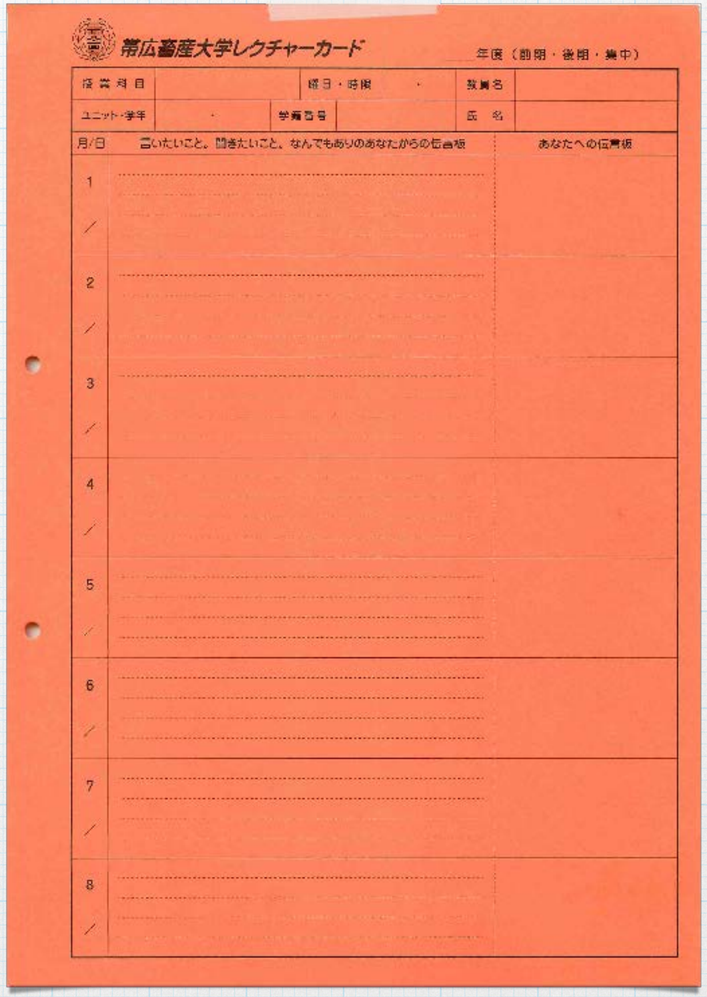
3. アクティブ・ラーニング型授業の例

タイプ I教員主導（受動→能動）	■コメントシート・レクチャーカード■小テスト・レポート・予習復習課題・e-Learning■クリッカー・クイズ・問いかけと回答
タイプ II教員主導（汎用的能力）	■ディスカッション■プレゼンテーション■体験学習
タイプ III学生主導（汎用的能力）	■協同・協調学習　■調査学習　■LTD話し合い学習法■ピアインストラクション■PBL　■TBL　■IBL　■FBL・フィールドワーク

溝上（2014）

3. アクティブ・ラーニング型授業の例

- まずは簡単なものでも◯
  - タイプⅠでも効果
  - 「学習中心」の意識化
- コースの一部だけでも◎
  - 講義＋数回の演習でも効果
    Deslauriers-Shelew-Wieman (2011)
- 反転授業
  - 授業外学習＋AL型講義



まとめ

- アクティブ・ラーニング
  1. 非「受け身学習」
  2. 学習パラダイムの意識化
  3. 簡単な導入→授業に合わせた工夫→本質的効果

平成28年度第1回FD・SD研修会
アクティブ・ラーニングを促す授業実践

アクティブ･ラーニング型授業の実践例
～大講義室での実践事例の紹介～

平舘 善明（教育学・教職課程）

Ⅰ．アクティブ・ラーニングへの私のスタンス

- 教育学の学界での議論；実は･･･
- 教育学：人間が他の動物より急速に進歩・発展できたのは、特製能力「心のギア」

お互いの心の中に相手の要求や気持ちについての「仮説」を積み上げていく能力。

「おい！（醤油をとってくれ）」〔父〕－「はい」〔母〕
「オレ、味噌！」「1いえば10わかる」

⇨ 学生の心理的要求、理解度、学ぶ意欲の共有・把握；
「学生による主体的・能動的な学習」は不可欠な存在

ビデオ講座ではなく、目の前に教師がいる意味

Ⅱ．大講義室での講義の一事例

- 大人数授業でやるとなると･･･
  （30人程度の授業であれば、授業中に「どう思う？」、“あっ、眠そうになってきたから、もう少し具体例を入れるか･･･？”など、自然に行える）

⇩ 紹介

「教育原理」生きる基盤（～200名；2年前期）
第9講　“いい授業”って何だろう？
→ 全体でディスカッション

Ⅲ．講義概要と進め方

１）A4プリント配布（※次のスライド）

２）次の4つの授業パターンに、教師の目線から“いい授業”の順位づけ

ア．楽しくてわかる授業
イ．つまらないけどわかる授業
ウ．楽しくてわからない授業
エ．つまらなくてわからない授業

オームの法則V=IRの穴埋め問題をひたすら解かせる

電圧を上げて電熱線を熱して、抵抗を実感する実験
V＝IRの問題解けない･･･

○自分の予想　　ア　→　　→　　→

理由・

・

教育原理

第９講　“いい授業”って何だろう？

１．ディスカッション；「いい授業」って何？

★次の４つの授業パターンに、教師の目線から“いい授業”の順位づけをしてみよう！

ア．楽しくてわかる授業
イ．つまらないけどわかる授業
ウ．楽しくてわからない授業
エ．つまらなくてわからない授業

○自分の予想　ア → ＿＿ → ＿＿ → ＿＿

理由
・
・
・

○他の人の予想　ア → ＿＿ → ＿＿ → ＿＿
ア → ＿＿ → ＿＿ → ＿＿

理由
・
・
・
・

資料　「わかる授業とたのしい授業」『よくわかる授業論』（ミネルヴァ書房、2007年）

【Note】

３）学生にマイクを向けて、出てくるパターンを、
黒板に縦に区切って書く。
全員に手を挙げさせて、各パターンの支持率をみる。

※学生の解答は大体3パターン程度

- ア→イ→ウ→エ：わかる重視型；大半
- ア→ウ→イ→エ：楽しい重視型；2～3割
- その他：数人

４）各パターン支持者にマイクを向け、理由を求め、
要点を黒板に授業者が端的にまとめる。

※「こっちからは、こんな意見が出てるけど、反論は？」、
「出てこないってことは、このパターンが正しいという
結論でいいってことかな？」

※議論の中間で、再度、支持率をチェック

～議論の一例～

ア→イ→ウ→エ：わかる重視型

①「わからせることが仕事。問題が解けねば意味がない。」
「まず、わからないとその後に続かない。」
②「わからないと、あとで復習できない。」
③「復習しようとしても、わかっていなければ、何を復習していいかもわからない。」

ア→ウ→イ→エ：楽しい重視型

①´「楽しくないと学ぶ意欲がそもそも出ない。」
②´「楽しくないと、後で復習する気もおきない。」
③´「楽しければ、わからなくても自分で勉強する時に学ぶ内容のイメージが残る。」

⇨「楽しい」の内容・質に議論が焦点化してくる

５）議論が煮詰まってきたら、
資料(A3両面；次のスライド)を配布

「わかる授業とたのしい授業」『よくわかる授業論』

①この議論=教育学の学界で1970年代（＝受験体制・競争激化に伴う4本足のにわとり問題・新幹線授業・落ちこぼれ）に行われた議論。

②議論の追体験；「学者と同じにポイントにたどり着いた！」

③そこでの結論は、ア→ウ→エ→イ

（つまらなくても何でも、とにかく“わからせればいい”“つめこめばいい”という考えで教師が授業をすることが最悪！子どもの学ぶ権利の侵害）

④楽しさ：「気まぐれ(fancy)」ではなく「知的関心(interest)」
そこには知的緊張や努力も伴う。

→「えっ、それどうなってるの？」という知的関心を引き出し、学ぶ意義を実感させ、子どもの学ぶ権利を保障する。

田中耕治編『よくわかる授業論』（ミネルヴァ書房、2007年）

4 「わかる授業」と「たのしい授業」

良い授業の条件として，「わかる授業」や「たのしい授業」ということばがよく使われます。そして，この「わかる」と「たのしい」は調和することで，よい授業が生み出されると一般には理解されています。しかしながら，戦後の授業研究の歴史をひもとくと，1970年代の初頭に「わかる授業」に対する批判として登場したのが，「たのしい授業」の主張であったことがわかります。ここでは，その論点を紹介することで，授業のあり方を深めていきましょう。

「わかる授業」への批判

1970年代の初頭とは，1960年代を通じて進展する「学歴社会」を背景として，「学力問題」が社会問題化する時期にあたります。それは，たとえば「落ちこぼれ・落ちこぼし」ということばに象徴される「学力格差」問題として，また「**四本足のにわとり**」問題[1]として論争をよぶことになった「病める学力」問題として，自覚されていくのです。

このいわば「受験体制・競争」の激化にともなう「学力問題」に直面して，授業研究の新しい展開を印象づけた一つの重要な提案が，「たのしい授業」という主張でした。その代表的な論者は，板倉聖宣（「**仮説実験授業**[2]研究会」）と遠山啓（「**数学教育協議会**[3]」）であり，その後，安井俊夫（「歴史教育者協議会」）が続きます。そして，彼らの主張は，彼らの属する研究団体のなかにおいて，さらには広くこの時期の授業研究の動向にも影響を及ぼしていくのです。

この「たのしい授業」の主張に対して，当然のごとく「授業はたのしいだけでよいのか」という反論が起こってきます。これに対して，その主張の急先鋒に立った板倉[4]は，「もちろんたのしいだけでいいのだ」と切り返します。そして，「たのしい」と「わかる」の四つの組み合わせ（「たのしくてわかる」「たのしいがわからない」「たのしくないがわかる」「たのしくなくてわからない」）を示して，その最悪の組み合わせは，「たのしくないがわかる」であると言います。なぜならば，このケースは，子どもたちの「生きる喜び」とは無縁の「教育内容」を「たのしくなくともわからせてしまう授業」であり，それこそ人権侵害であると断罪するのです。「たのしい授業」とは，したがって「わからせるためにたのしくする」のではなく，「たのしさそのものが目的」となる授業のあり方を示そうとしたのです。

遠山[5]も，「たのしさ」に懐疑的な意見に対して，その根底に「儀式的授業観」

▷1　「四本足のにわとり」問題
子どもたちが四本足のにわとりの絵を描くようになった問題。

▷2　仮説実験授業
⇒XV-6参照。

▷3　数学教育協議会
⇒XV-5参照。

▷4　以下，板倉の主張は，板倉聖宣『科学と教育のために』季節社，1979年参照。

▷5　以下，遠山の主張は，遠山啓『たのしい数学・たのしい授業』遠山啓著作集数学教育論シリーズ10，太郎次郎社，1981年参照。

Ⅳ．大人数ディスカッションの効果

- 感想用紙（A5版；次のスライド）
　みんなビッシリ書いてくる!
発言者はせいぜい15人程度。でも発言しなくても、それぞれが積極的に考えていることが確認できる。

※毎回書いてもらう。分量で自分の講義の良し悪しが判明。正直、読むのだけでも大変･･･。読んで学ぶ・気づく事も多い。
→自分の説明不足やみんなで共有したい質問・意見・見方(変わった見方を含む)を8つに絞り、次回の授業の最初にA3プリントで配布し説明。＝「心のギア」を用いた前回のおさらい。

e.g.)「いい授業をするには「お笑い芸人」のような教師を探すのが最も簡単な方法？」

→大事なのは、テクニックではなく教える中身。
「お笑い芸人」ではなく「マジシャン」や「でんじろう先生」

教育原理　ミニレポート

6/9

学籍番号　　名前

授業の楽しさ、わかるについて、色々な意見を聞き、主張を知るのは面白かった。良い授業のイメージは人によって異なり、育った学校や環境によって左右されるのだと思う。生徒の知識欲の高さによって楽しいの捉え方がちがうのだと思った。学びたい、問題を解けるようになりたいと感じる生徒にとっては、つまらない授業であっても、わかることが満たされれば良い授業になる。つまらないけどわかる授業が一番下だと知り驚いた。最後に配られたプリントを読む時間がなかったので、後で理解したい。教室の中で様々な主張を持つ生徒を前に教壇に立つ先生は厳しいのだと感じた。学問の楽しさをいかに伝えるかしっかり考えられる教師は素晴らしい。自分は宿題とか課題を自主的にさくさく解ける面白さ、わかることが楽しいと考えていた。そうではない人の理論を学べてよい授業だった。

教育原理　ミニレポート

6/9

学籍番号　　名前

私は、教職をとっていないのですが、教職をとるかどうか迷ってやめました。今日の授業は、教職とればよかったなと思わせられる授業でした。今の日本の教育が「つまらなくてわからない授業」が最悪という価値感であることが、とても悲しかった。日本の教育もなめたもんじゃないなと思いました。まだ形にはなりきっていないけれど。

ディスカッションの時に、「楽しくてわからない授業」は本当はそうにしたくないけれど理想論だと思っていました。辛いけど教師としては理解を優先して求めないといけないと縛りつけている部分がありました。それも純粋に楽しく勉強したいです。

自分は中学までは授業が好きで成績も良かったですが、高校の授業はなんだかつまらなくてあんまり勉強する気が起きませんでした。それは、授業を聞いていて、勉強しなくちゃと思わせられる授業で、楽しい、興味がわくものではなかったからかもしれないと今日の授業を通して思い、少し答えが見つかったような気がします。

Ⅴ．ネタ選びのポイント

- いくつかのパターンに回答がまとまる
- 学界の研究成果として見解がまとまっているもの
- 学生の価値観をゆさぶれるもの＝生活概念の再構成

  本事例の教育目的(裏テーマ)：“授業観をひっくり返せ！”
- 内容が、身近に感じられてイメージしやすいもの

2016/6/7

第1回FD・SD研修会ワークシート

■アクティブ・ラーニングの実践例，課題など（各自記入用）

■グループのアイディア（自グループ・他グループのアイディア記入用）

■他グループのアイディア（取材用）

平成２８年度第１回ＦＤ・ＳＤ研修会に関するアンケート

タイトル：アクティブ・ラーニングを促す授業実践

教育支援室

＊今後のＦＤ・ＳＤ研修会の実施、研修内容の改善の参考にするために、以下の質問にお答えください。

設問１．今日のＦＤ・ＳＤ研修会に参加したことは、ご自身の教育能力の改善のために有意義でしたか？

１．非常に有意義だった　　２．やや有意義だった　　３．どちらともいえない
４．あまり有意義でなかった　　５．まったく有意義でなかった

設問２．今回のＦＤ・ＳＤ研修会のテーマに関連した追加の質問や意見などがありましたらお書き下さい。

設問３．その他、ＦＤ・ＳＤ研修会全般に関するご意見、ご提案などがあれば自由にお書き下さい。